

件名	第4回平成の御車山利活用検討委員会 会議録		場 所
			高岡市役所8階 801会議室
年月日	平成30年12月17日(月) 16時～17時		
参加者	委員	8名	
	産業振興部 観光交流課 生涯学習・文化財課	川尻部長 長井課長、宮崎係長、片岡主事 宇波主幹(課長代理)(オブザーバー)	
内容	<p>《平成の御車山利活用検討委員会報告書(案)の最終確認について》</p> <p>・・・資料1-1、資料1-2</p> <p>委員長：第3回までの委員会において、産業観光をキーワードに、市民参加でアイデアを持ち寄って利活用していく、という方向性で報告書を作成した。今回が最終確認となるが、何か意見・質問はないか。</p> <p>A 委員：利活用の取組内容(案)について、いくつも項目を挙げ、具体的にまとめられている。取組をよく整理されているので、今後の運営組織において、委員長の発言のとおり市民参加型での利活用を実践して欲しい。</p> <p>B 委員：性別にかかわらず平成の御車山に関わることができるよう検討する、とされている。今の御車山は女性や子どもは乗れないが平成の御車山は乗れる、ということも報告書に記載してはどうか。</p> <p>委員長：乗車体験の実施方法についても今後の運営組織で決定していくものであり、この検討報告書にはそこまで詳細に書かなくてもよい。ただ、「性別、年齢、信条に関わらず平成の御車山に関われるように」ということを、今後の組織にも引き継いでいく必要がある。</p> <p>C 委員：従来の7基とは全く別のものとして、神事とは離れて市民全員が楽しめるようなものを企画したい。</p> <p>D 委員：今まではバラバラだったそれぞれの分野の職人たちが、一体感を持ち、お互いをリスペクトしながら作り上げた。この技術の高さを市内外に発信していきたい。</p> <p>E 委員：山車の部分的な修理には携わったことがあったが、一から新しい山車を作るのは初めてで、ベテランの職人と若手の職人が一緒になって作り上げることにより、技術の伝承にも繋がった。</p> <p>F 委員：高岡の技術力を結集し、それが平成の御車山という「物」になって完成した。高岡を象徴するものになって欲しい。</p> <p>G 委員：山町と平成の御車山との関わりを考えていきたい。</p> <p>委員長：平成の御車山のように、本物の山車を一から作った例は全国にあるのか。</p> <p>事務局：おそらくない。</p> <p>C 委員：平成の御車山を曳くことを考えた時には、曳手もそうだが囃し手も育成しなければならない。</p> <p>委員長：今後の利活用については、ハード面だけでなくソフト面の人材育成も進めていく必要がある。</p>		